

◆お知らせ

ご挨拶でもふれさせていただいた新潮新書より発売された新命の著書です。淡交社より発売中の「禅とジブリ」はスタジオジブリのプロデューサーであられる鈴木敏夫さんによる対談本です。新命も登場しております。世界的なアニメ映画と禅との接点、鈴木さんによってとても面白い内容となっております。ぜひご覧ください。



編集後記

○皆様、酷暑の中間かがお過ごしですか？エアコンが無いと生きていけません。エアコンに感謝です○今迄、四国巡拝は10巡り、百観音巡礼等に沢山の方々をお連れしました。今秋には近畿36不動尊巡礼と第10次四国88ヶ所巡拝が結願になります。巡礼の旅は、楽しく元気になります。お寺の下見をして昼食や名物のおやつを決めています○方丈さんと10才違う私は今年68才になりました。私の企画、引率の旅は、そろそろ終わりに近づいています。ぜひ、お友達、お1人でもご参加下さい。何時でもお問い合わせ下さい○お彼岸の頃2才になる佳子ちゃんの方丈さんと一緒に時間も多く腰に手を置く方丈さんの癖や、立ち上がる時に「ヨイシヨ」と言っていて真似しています○長男の太輔一家と日本百名城巡りを始めました。巡拝で鍛えた方丈さんは狭いお城の階段を楽々登ります○山内一同おかげ様で元気になっております。お彼岸会には、皆様とお目にかかれるのを楽しみにしています。猛暑のお疲れが出ませんように。お元気で。要子

◆第15回

天満敦子ヴァイオリン・コンサート

日時 10月6日(土) 午後5時開演
会場 龍雲寺本堂(椅子席)
定員
3時から整理券配布
お申し込みはFAX/電話・HPで。
定員になり次第締め切ります。お抹茶・虎屋さんのお菓子・笹寿司をご用意しております。

臨済宗妙心寺派 龍雲寺 花園会報

二〇一八年 秋彼岸号

〒一五四一〇〇〇三
東京都世田谷区野沢三三三八一

TEL〇三三三四二一〇二三八
FAX〇三三三四一八一九八六三

監修／細川晋輔 編集／細川要子

野沢龍雲寺 検索

ご挨拶

新命住職 細川晋輔

今年の夏は三十度を超えることが当たり前と思えるくらいの酷暑でした。西日本では大雨による記録的な災害も発生し、多くの方々がいまなお不自由な暮らしをされています。一日も早い復旧を心より祈念申し上げます。また、龍雲寺でも先日の豪雨と雷では、お寺の電話等が二日間使えなくなるなど、今までの生活では考えられないことが起こっています。

私事ですが、先日新潮新書より「人生に信念は要らない」を出版させていただきました。三十代という年齢で、まだ経験も知識もない未熟者が、書籍を書かせていただくことには、大きなためらいがありました。何より「禅」について自身の見識を述べるといことは、私にとって最大の難関であったのです。

禅宗の僧侶である私たちにとって、「禅の教え」を言語化することは簡単であるようで、とても難しいことなのです。なぜならそれは、禅は「不立文字」といって、「文字で表現することはかなわないもの」であるからです。「禅は、説けば説くほど遠ざかり、書けば書くほど隔たるの感あり」

胸にさざります。まさにその通りで、原稿を書いては直し直しては書くの繰り返しでした。やはり、時期尚早であったと編集者に延期を願おうと思つた時もありました。しかしそのような時、私は亡くなった祖父である松原泰道師を思い出すのです。

確かに禅は、説けば遠ざかり、書けば隔たるものであるものかもしれません。しかし、だからといって、諦めてしまつていいのでしょうか。たくさんの著作を残し、亡くなる二日前まで講演をされていた祖父。禅というものが、遠ざかり、隔たるものだからこそ、書き続け、説き続けることが大切であると、亡くなった祖父はその背中で教えてくれるのです。そして何よりその教えを守っておられるのが、横田老師であられるのです。

「先祖を敬い故人を偲ぶ」という秋の彼岸に際し、ぜひ墓参りと秋季彼岸会にお参りいただき、忙しい毎日から少し立ち止まって大切な故人との対話をしして頂ければ幸いです。季節柄御自愛專一の程、祈念申し上げます。

秋季彼岸会法要

平成30年9月23日(日)

於・龍雲寺本堂

正午

御詠歌奉詠

午後12時45分〜法話(本派布教師)

午後1時30分〜法要

※おはぎとお漬物を用意しています。どうぞお参り下さい。申込不要。

第十三回 妙心寺と五山送り火の旅

池田 雅美

八月十五日、初めてお寺の旅行にお連れ頂きました。京都駅から秀吉北政所ねね様ゆかりの高台寺圓徳院様特別展に直行し、枯山水の素晴らしいお庭を拝見しました。

昼食は旧竹内栖鳳私邸の古都の風情溢れる日本家屋「東山SODOH」で彩り鮮やかな美味しいイタリアンでした。

非公開の大珠院様でお庭を拝見しながら、お抹茶を頂戴し、ご説明を伺いました。花園会館に三時に到着、入浴、お昼寝後、夜は昼間の酷暑の気配を見せぬ貴船へ。流れ下る川の水面に手が届きそうな川床で、妙心寺の管長様とご一緒の席で冷気に包まれながら、美味しい料理を堪能しました。第一日目にして、京都の良い所がギュッと詰め込まれた宝箱の様な一日でした。

二日目の早朝、見事な大輪の蓮の花池を見に法金剛院様までお散歩、会館に戻り朝粥を頂きました。お写経・写仏後、かき氷等のおやつを頂き、妙心寺法堂で

の、お精霊送りへ。法堂の中にお経が響き渡り、お堂一杯の人々の心に深くしみ込むものでした。

妙心僧堂の修行僧の方々の日々の暮らしを目の当たりにして、ご説明を伺った後には、京都の酷暑を体感しながらも、暑い位何と言うこともない我が身が日頃からどれ程楽な暮らしをしているかを実感致しました。この一点だけでも、この旅が意味あるものと感じました。

天気は不安定でしたが、送り火の精進料理を頂き終える頃には、雨は止み、宿泊している会館の屋上で椅子に座り、管長さまとご一緒に送り火を拝む事が出来ました。

三日目の朝は団参で「衆生本来仏なり」の意味深い法話を伺い改めて、自分の内に思い巡らす良い機会を頂きました。二泊三日の内に、開山堂、涅槃堂、狩野派の襖絵をはじめ、素晴らしいお庭等、妙心寺の奥深い所まで拝観させて頂きました。

龍雲寺第十世宗源和尚入祖堂 団参旅行のご案内

先々代・細川宗源和尚が亡くなられて四十年以上の月日が流れました。つきましては、来年の平成三十二年、四月二十日(土)から二十二日(月)までの二泊三日で京都にあります大本山・妙心寺におきまして入祖堂を厳修いたします。

入祖堂とは、お寺においての位牌の永代供養にあたります。宗源和尚の位牌を大本山妙心寺にお納めするため、管長現下(導師のもと、重要文化財の法堂で法要を行います。つきましては、檀信徒の方々にもご参列給わりたくご案内申し上げます。

詳細は年内に花園誌と一緒に案内状を送る予定です。あくまでも案であります。東京からバスで京都へ向かい、琵琶湖が一望できる宿舎で泊まり、妙心寺での法要。その後は岐阜県の下呂温泉へ。宗源和尚が若き日に修行された虎溪山・永保寺をお参りし、帰路には「おんな城主・直虎」の舞台となった浜松の龍潭寺を拝観と考慮しております。こちらのも後日、案内状をご覧ください。ご参加いただきますよう、お願い申し上げます。



募集中

詳しくは龍雲寺まで
お早めにお申し込み下さい。

◆無相教会花園流御詠歌会員募集

9月10日(月)・10月23日(火)
11月20日(火)・12月25日(火)

自主練習(不定期)

◆早朝洗心坐禅会(初回のみ要予約)

毎週日曜日
朝6時30分～8時30分(6時開門)
会費 無料

※初回参加の方のみ予約が必要となります。

詳しくはホームページをご覧ください。

◆写経会(初回のみ要予約)

毎月第2土曜日 1時～4時
(但し、7月、8月はお休み)

納経料は一卷500円(龍雲寺に納経)

◆龍雲寺厚木墓地のご案内

開修寺墓苑内に龍雲寺檀徒用の墓地を造成しました。龍雲寺檀徒としてお付き合いをさせて頂きます。

◆龍雲寺てらこや子ども論語塾

花園誌に連載中で、全国各地で定例講座をされている安岡定子先生をお招きしての論語の素読教室です。

又、匂い袋製作、友禅染めのお楽しみも有り、全てを満喫した旅でした。
これは何より計画、ご引率して下さいました閑栖様、奥様の細部に渡るお心配りのおかげと、心より御礼申し上げます。又の機会を心待ちにしております。ありがとうございます。



【日時】毎月第一日曜日

※7・8月はお休み

午後3時から

【参加費】大人800円、子ども500円
(家族料金800円)

申し込み、お問い合わせはお寺まで

○他にも龍雲寺では開縁の会・茶道部・獅子舞・子ども会、かっぱれ・ヨーガ等があります。

